様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 １４ 日現在

機関番号：３３９１０
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１３１４７

研究課題名（和文）外国語読解における促進的不安の性質の解明

研究課題名（英文）Exploring the role of facilitating anxiety in foreign language reading

研究代表者
三上　仁志（Mikami, Hitoshi）

中部大学・人文学部・准教授

研究者番号：９０７７０００８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：テスト場面で注意力を向上させ、学習行動を促す不安感情は、促進的不安と呼ばれる。言語教育領域における本概念の提唱は、40年以上前にさかのぼる。しかし、その性質については、実証的な検証が、ほとんど行われてこなかった。促進的不安の性質を明らかとすることは、言語運用や学習における不安の役割の包括的な理解につながる。このような理由から、外国語読解における促進的不安の性質を検証することとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本プロジェクトの目的は、外国語読解における促進的不安の性質を解明することであった。コロナ禍の影響により、研究期間内に目的を完全に達成することは叶わなかったが、外国語教育の領域の発展に貢献する成果をあげることはできた。最大の研究成果は、外国語読解における促進的不安の性質を十分に理解するためには、新たな不安尺度の開発が必要となることをデータで示し、学術雑誌で発表したことである。この知見は、今後の外国語読解研究における新たな可能性を示すものとなった。

研究成果の概要（英文）：Anxiety that enhances attention and promotes learning behavior in test-taking situations is termed facilitating anxiety. Existing studies in the field of language learning research have predominantly focused on anxiety's inhibitory negative aspects, neglecting its potential facilitating role. Therefore, this project aims to elucidate the nature of facilitating anxiety in the domain of foreign language reading.

研究分野：応用言語学

キーワード：外国語読解　不安　促進的不安　リーディング

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

概要：テスト場面で注意力を向上させ，学習行動を促す不安感情は，促進的不安と呼ばれる。言語教育領域における本概念の提唱は，40 年以上前にさかのぼる。しかし，言語不安に関しては，これまで抑制的な負の側面が研究され，その促進的な性質は，検証されてこなかった。促進的不安の性質を明らかとすることは，言語運用や学習における不安の役割をより包括的に理解することにつながる。以上の理由から，筆者は，自身の研究領域である外国語読解における促進的不安の性質（＝その構成概念と言語運用や学習における役割）を検証することとした。

背景：ポジティブな情意的要因の働きに注目し，効果的な外国語学習の達成を目指すポジティブ心理学は，近年，主要な研究領域となっている。これに関連し，抑制的な負の言語不安を低減する方法も，盛んに研究され始めた。このような流れの中，筆者は，外国語読解の分野で抑制的不安の発生条件や低減方法に関する研究を進めてきた。

筆者は，過去に実施したインタビュー調査の分析を進める中で，外国語読解に対する不安感が，テストパフォーマンスを向上させる可能性を確認した。しかし，言語運用や学習と関係する促進的不安を扱った先行研究は非常に少なく，そのため，促進的不安と外国語読解の関係も実証的に示されてはいなかった。以上の理由から，筆者は，外国語読解における促進的不安の性質（＝構成概念と読解における役割）を検証することとした。

２．研究の目的

本研究の目的は，外国語読解における促進的不安の構成概念と役割を明らかとすることであった。研究課題に対する答えを導くため，筆者は，まず，既存の促進的不安尺度の外国語読解分野での応用可能性を検証した（**研究１**）。仮に既存の促進的不安尺度が外国語読解の分野で十分に応用可能であれば，新たな尺度を作成する事は，経済的とは言えない（＝その尺度を使用して，促進的不安の外国語読解における役割を研究すればよい）。一方，外国語読解分野で既存の促進的不安尺度を使用することが適切ではない場合，外国語読解領域に特有の促進的不安を測定するための尺度を開発することには，十分な合理性があることとなる。新たな尺度の必要性が確認された場合，その開発を行い，妥当性の検証を行うこととした（**研究２**）。

３．研究の方法

研究１：まず，既存の促進的不安尺度の外国語読解分野での応用可能性を検証するための調査を行なった。この目的を達成するために，Alpert and Haber (1960)が開発した促進的不安尺度（the Facilitating Anxiety Scale）を使用して測定した特性が，①外国語の読解を阻害するとされる不安(外国語読解不安)と負の関係を持つか否か，②外国語の読解を促進するとされるポジティブ特性と正の関係を持つか否か，③外国語の読解テストの得点と正の関係を持つか否か，を検証した。

調査では，104 名の大学生を調査対象として，質問紙データと読解テスト得点を収集した。促進的不安以外で注目した変数は，以下の通りである：(a) 外国語読解不安：既存の３つの尺度を用いて，抑制的な言語不安の程度を測定した，(b) ポジティブ特性：読解不安と負の

関係を持つことが想定される Reading Efficacy（リーディングにおける自己効力感），Intellectual Value（リーディングに対して感じる価値），Comfort（リーディングに対する快の感情）の程度を測定した，（c）外国語読解テスト：標準化テストである TOEIC の Reading section の得点を読解パフォーマンスの指標とした。分析結果の報告は，次章（４．研究成果）に譲る。

研究２：研究１の結果を受け，外国語読解に特有の促進的不安を測定するための尺度開発を行なった。開発においては，the Facilitating Anxiety Scale をベースとして，促進的不安の発生場面を外国語読解テスト場面に，その発生要因を外国語読解テストの内容に変更した。この尺度の妥当性を検証するため，106 名の大学生を対象としてデータ収集を行なった。調査では，新尺度の信頼性と因子構造を確認することに加え，基準関連妥当性（新尺度の得点が、外部基準と高い相関を持つかどうか）を検証した。具体的には，（a）（妨害的な）外国語読解不安，（b）外国語読解不安と負の相関を示すポジティブ特性，（c）外国語読テスト（TOEIC の Reading section）の得点データを収集し，新尺度の得点と基準変数の関係の検証を行なった。分析結果の報告は，次章（４．研究成果）に譲る。

４．研究成果

研究１：前述の８変数を使用して，促進的不安が，上記の①～③で示した振る舞いを見せるか否かを検証した。結果として，the Facilitating Anxiety Scale を用いて測定された促進的不安得点が，①外国語の読解を阻害するとされる不安尺度の得点と負の関係を持つこと，②外国語の読解を促進するとされるポジティブ特性の得点と正の関係を持つこと，が確認された。ただし，③については，促進的不安と読解テストの得点の間に中程度の相関が見られたものの，その検定力は，十分とされる水準になかった。また，促進的不安，外国語読解不安，ポジティブ特性のそれぞれが，読解テスト得点とどの程度強く関係するかを比較したところ，促進的不安とテスト得点の関係は，相対的に弱いものであった。以上の結果から，既存の促進的不安尺度を外国語読解研究に使用することには，限界があると結論した。これらの結果を，the Association for Reading and Writing in Asia の年次大会，および学術誌 Reading in a Foreign Language で発表した。

研究２：The Facilitating Anxiety Scale をベースとして開発した外国語読解（テスト）に特化した促進的不安尺度は，①信頼性が高いこと，そして②the Facilitating Anxiety Scale の得点よりも強く読解テストの得点と関係することが確認された。この新尺度の妥当性を更に検証することが，今後の課題である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Hitoshi Mikami	４．巻 57
２．論文標題 Revalidation of the L2-Grit scale: A conceptual replication of Teimouri, Y., Plonsky, L., & Tabandeh, F. (2022). L2 grit: Passion and perseverance for second-language learning	５．発行年 2024年
３．雑誌名 Language Teaching	６．最初と最後の頁 274-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0261444822000544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hitoshi Mikami, Tadashi Shiozawa	４．巻 13
２．論文標題 Cheating in Extensive Reading: Myth or Reality?	５．発行年 2023年
３．雑誌名 SAGE Open	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/21582440231168809	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hitoshi Mikami	４．巻 35
２．論文標題 A Preliminary Assessment of Facilitating Anxiety in Second Language Reading	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Reading in a Foreign Language	６．最初と最後の頁 30-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 Hitoshi Mikami
２．発表標題 Does study-abroad participation affect the long-term growth of second language listening skills?
３．学会等名 AAAL 2023 Conference（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Hitoshi Mikami, Tadashi Shiozawa
２．発表標題 Initial advantage and achievement in L2 reading: Does the Matthew effect operate in language major contexts?
３．学会等名 The 4th Annual Conference for the Association for Reading and Writing in Asia（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Hitoshi Mikami, Tadashi Shiozawa
２．発表標題 Problematic strategies in extensive reading practice: Assessment and future directions
３．学会等名 The 55th RELC International Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Hitoshi Mikami
２．発表標題 Preliminary evidence for facilitating anxiety in second language reading
３．学会等名 The 5th Annual Conference for the Association for Reading and Writing in Asia（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Hitoshi Mikami
２．発表標題 Is L2 grit related to absolute levels of language attainment?
３．学会等名 EuroSLA 32（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計1件

１．著者名 三上仁志、他	４．発行年 2021年
２．出版社 金星堂	５．総ページ数 277
３．書名 応用言語学と外国語教育研究―未来への展望―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関